

会

報

鹿児島県中学校技術・家庭科教育研究会

URL <http://ajgika.ne.jp/~kagoshima/>

あいさつ

鹿児島県中学校技術・家庭科教育研究会
会長 長元 武彦

本年度、本研究会の会長を拝命しました「長元武彦」です。これまで諸先輩方が繋いでこられた本研究会の歴史を踏まえ、さらに発展させるべく、微力ではございますが努力して参ります。会員各位の御協力を、よろしく申し上げます。

今年度に入りまして、未だに新型コロナウイルス感染症の影響を受け、技術・家庭科をはじめとする諸教育活動に大きく制限がかかっている状況が続いています。

このような状況下ではございますが、技術・家庭科教育に対する情熱は絶やさぬよう、ものづくり競技大会や作品展、そして各地区輪番の県大会を可能な範囲で進め参りました。特に本年度、始良・伊佐地区における県研究大会では、国分南中学校を会場に技術・家庭両分野の授業提供により、授業研究、研究発表等にオンラインも含め県内各地から近年では最も多い参加者を得て充実した大会ができました。授業並びに会場を提供いただきました国分南中学校の先生方に、改めてお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。おかげをもちまして、これまで中止や規模の縮小をせざるを得ず失われた各種ノウハウを再度取り戻すとともに、ハイブリッドなどの取組により、新たなノウハウを習得することもできました。

令和8年度には本県で全国大会を開催します。令和5年度に南薩地区で県研究大会を開催後、6年度から鹿児島市等での県大会を実施することで全国大会の準備を進めて参ります。つきましては、県下技術・家庭科担当者がワンチームとなって、取組を進めて参りましょう。

各学校では、これまで培ってきた研究の成果を大いに活かしつつ、問題解決の行動としての実践的・体験的な活動をさらに充実させていく必要があります。さらに、技術分野では、生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化する視点で取り組むとともに、家庭分野では生活文化の継承という視点での取組を充実させてください。

最後になりましたが、日頃から本研究会の活動に、御支援・御指導頂いております県教育委員会、総合教育センターをはじめ、県下各市町村教育委員会、教育事務所、本研究会の顧問、特別顧問の先生方などにも深く感謝申し上げます。

第71回鹿児島県中学校技術・家庭科教育研究大会を終えて

始良・伊佐地区

1 はじめに

令和4年度の鹿児島県中学校技術・家庭科教育研究大会を始良・伊佐地区が担当しました。コロナ禍ではありましたが、3年ぶりに多くの方が参加して大会を実施できたことに、地区の技術・家庭科担当者全員が喜んでいるところです。

本地区は中・大規模校が多く、技術・家庭科の免許保持者の割合も他地区に比べたら高いです。昨年度から本大会に向けて、各分野の研修会や研究授業を行ってきました。これまでの継続した取組が今回の研究授業や大会運営につながっています。コロナ禍で教科のことについて学ぶ機会が少なくなりましたが、私たちも県内の先生方とお互いに学び、語ることでできる大会になったと感謝しています。

2 研究大会内容について

(1) 日時 令和4年11月11日(金)

13:00~16:40

(2) 会場 霧島市立国分南中学校

(3) 研究授業

<技術分野>

授業者 池岡 啓一 教諭

授業内容:「D 情報の技術」

<家庭分野>授業者 川上 千聡 教諭

授業内容:「B 衣食住の生活」

(4) 研究発表

<全体発表>

鹿児島大学教育学部附属中学校 山口 隼人教諭

内容:「学びを生かし合い、よりよい生活を工夫し

創造する資質・能力を育む技術・家庭科教育」

<技術分野>

鹿児島市立西紫原中学校 竹下 誠 教諭

内容:「実社会とのつながりを意識した技術・家庭

科教育の実践~AIを取り入れた計測・制御

システムの開発場面を通して~」

<家庭分野>

鹿児島市立南中学校 前田 季恵 教諭

内容:「学びを生かし合い、よりよい生活を工夫し

創造する資質・能力を育む技術・家庭科教育

~持続可能な社会の構築に向けて、衣生活を

工夫し創造する資質・能力の育成~」

研修会だより

総務部

<技術分野>

- 1 日時 令和4年8月4日(木)
- 2 会場 鹿児島ドック鉄工株式会社
- 3 参加人数 10人
- 4 内容
 - (1) 施設・設備見学
 - (2) 講義
「鹿児島の水産を支える船舶などの技術について」
講師：鹿児島ドック鉄工株式会社 社員
- 5 参加者の感想
 - 普段目にする事ができない船のドックの様子を間近で見ることができ、とても面白かったです。ここで聞いたお話を授業でも生かせることができればと思いました。ありがとうございました。
 - ここ数年プログラミングの研修が多かったので新鮮でよかったです。子どもにも見せてあげたかった見学でした。
 - 企業見学は大変勉強になりました。2学期の授業で生徒に紹介します。ありがとうございました。

<家庭分野>

- 1 日時 令和4年8月4日(木)
- 2 会場 鹿児島大学教育学部附属中学校美術室
- 3 参加人数 28人
- 4 内容
 - (1) 講義・陶器づくり
講師：(有) 荒木陶窯 代表者
 - (2) 家庭科の授業づくり・評価等について(情報交換)
- 5 参加者の感想
 - 実際にお会いして、たくさんのお話をすることができて、とても充実していました。黙々と陶芸をする時間はとても貴重でした。焼き上がりが楽しみです。評価の方法やコロナ禍での実習の工夫、リモート授業についてなどなど、多くの話をすることができました。ありがとうございました。
 - 感染症予防の対策を講じながらの夏季研修会の実施、準備等もありがとうございました。子どもたちもこのような授業だったら楽しいだろうなと思いました。器のできあがりも楽しみです。情報交換では、評価や実習内容についてもう少しお話を聞きたかったなと思いました。
 - 陶芸体験がとても楽しかったです。ありがとうございます。評価やテスト作成、そしてコロナの中での実習等悩みが多いです。何かよいアイデアがあれば情報提供してもらえればありがたいです。
 - 久々の対面研修でした。もう少し情報交換の時間がほしかったです。ありがとうございました。

今年度は、第71回県研究大会(始良・伊佐地区大会)が霧島市立国分南中学校で行われました。初めての午後開催、そして久しぶりの参加者ありの大会、さらにオンラインとのハイブリッドということもあり、運営にも不安がありましたが、会場校である国分南中学校の先生方を始め、始良・伊佐地区の先生方など、多くの先生方の御協力をいただきながら、参加者も100名を上回り、盛大に開催することができました。御参加いただいた先生方、御協力いただいたすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

また、第16回ものづくり競技大会が10月15日(土)に、第22回木工チャレンジコンテスト九州地区大会が11月19日(土)に、ともにかごしま文化工芸村で行われ、西紫原中学校の生徒が第一位となり、全国大会へ出場することとなりました。

第36回県中学校技術・家庭科作品展は、書類審査をオンライン上で行い、最優秀作品に選ばれた技術・家庭分野それぞれ3作品を県大会会場で展示いたしました。久しぶりの展示作品ということもあり、多くの先生方が興味を持って見学していました。

今後も県内の先生方の御支援、御協力をよろしく願います。

お知らせ

- 1 県版学習ノートを多くの学校で採用していただいております。来年度のノートの案内を県HPに1月頃アップする予定です。そちらを参考にぜひ採用の検討をお願いいたします。
- 2 今年度の各種案内でもお知らせしていた通り、来年度以降、本研究会主催の研究大会や研修会の案内を各学校メールおよび鹿児島県技家研HPにて、お知らせをしていきます。定期的にHPも更新していきますので、確認をよろしく願います。

<問い合わせ・連絡先>

鹿児島県中学校技術・家庭科教育研究会
資料部長 小野原 雅啓

熊毛郡屋久島町安房2371番地67
屋久島町立安房中学校
TEL 0997-46-3262
FAX 0997-46-3743